第 10 号

いせさき景観びじん

景観サポーター情報誌

ぷ ろ ろ ー ぐ

第 1 章『景観写真・絵画展開催』

平成 29 年 9 月 27 日(水)～10 月 12 日(木) 伊勢崎駅前インフォメーションセンター及び、10 月 23 日(月)～10 月 27 日(金)まで市役所の市民ホール（東館 1 階）にて景観写真・絵画展が開催されました。

内容は、「景観まちづくり展」として伊勢崎市の景観サポーターの取り組みの紹介、屋外広告物の指導、是正状況等のパネル展示や景観に関する各種パンフレットの配布等々。

また、昨年から同時開催で実施している市民参加を目的にした応募作品の「景観写真・絵画展」も、今年は「山と川のある伊勢崎の風景」というテーマを設定しました。今年からは、絵画も加えて沢山の素晴らしい作品を展示することができました。

特に、今回の写真作品では市内で活動しているいくつかの写真クラブからも参加協力を頂き、より魅力的な内容となりました。改めて関係者のご協力に感謝いたします。

景観サポーターとして、このような市民参加型の啓蒙活動を地道に継続させながら私たち、市

民ひとり一人が景観に対する意識を持って自分達の住んでいる町をより美しく、より住みやすい環境づくりを目指して活動していければ良いと思います。

（秋山）

第２章『広瀬川河岸にまつわる歴史散歩』

平成 29 年 9 月 30 日（土）第４回景観まち歩きとなる『広瀬川河岸にまつわる歴史散歩』が行われました。巡ったコースを紹介します。

- 三光会館（受付→スタート）

⇩

- 武孫平邸と伊勢崎河岸の石灯籠

この地は、江戸時代の寛文 3 年(1663)に船問屋を始めた武孫平邸と、同じく文政年間(1829 頃)に広瀬川河岸に奉献された石灯籠があります。これは航路安全、水難防止を願い水運の神（住吉大明神、大杉大明神）に寄進されたものだそうです。

⇩

- 馬坂と馬頭観世音

昔はこの馬坂を通って船荷の積み下ろしを行っていましたが、急坂のため事故が沢山起こり、多くの馬が死にました。これを悼み慰霊するために嘉永 5 年（1852）に武孫右衛門と馬持連が中心となり建てた馬頭観世音です。

▲ 馬坂

⇩

- 赤石稲荷神社

白狐稲荷伝説の赤石稲荷神社（五穀豊穣）は、伊勢崎 1 号古墳の頂きに約 320 年前に祀られました。しかし、カスリン台風でお稲荷様は濁流に飲み込まれました。その後、昭和 59 年に再建されました。鳥居から石段を上がった所に椋榎(むくえのき)の巨木に抱かれた西町の守り神が鎮座しています。

⇩

- 新橋と新開橋

昭和 56 年 3 月開通の人道橋で、路面には銘仙の図柄のタイルが施されています。この通りが、伊勢崎の由来にもなっており、伊勢の前通りと呼ばれていました。広瀬川東岸のマンションの所に三重県の伊勢神宮から分祀した、伊勢宮があったためでした。呑竜通りなど、かつては伊勢崎銘仙などの織物産業で明治から昭和の時代の隆盛期には大いに賑わった地域です。新開橋は昭和 2 年の開通で江戸時代の町割りには存在していなかった新しい道に架けられた橋です。欄干や照明のデザインは銘仙にちなみ、着物の襟合わせの形の意匠となっています。

▲ 新橋の絣柄

⇩

- カスリン台風水難者の碑

70 年前の昭和 22 年 9 月 15～16 日にかけて関東地方を襲ったカスリン台風は未曽有の豪雨をもたらし、多数の犠牲者が発生しました。伊勢崎市でも広瀬川と粕川が氾濫し死者 40 人、重軽傷者 875 人、流失家屋 259 戸等の大災害となりました。この慰霊碑は昭和 28 年 8 月に建立され、碑の裏側には亡くなられた 40 人の名前が刻んであります。

▲ カスリン台風慰霊碑

⇩

● 御殿山

御殿とは、藩主等の居宅兼政務所を意味しているようです。明治維新という時代の激動のなか、伊勢崎城（陣屋）は姿を消しました。それからほぼ 150 年後の現在も伊勢崎城一帯は、当時の雰囲気を残しています。御殿山とは、伊勢崎城内の城郭、庭園・竹林、武家屋敷等を含む城内一帯で明治・大正・昭和と桜の名所で市民に親しまれていたようです。

⇩

● 広瀬川三碑

南「竹のほたるふしよミ　ふつと立てにけり」墨水庵培堂（ぼくすいあんばいどう）

中「一睡の　夢の明るさ　合歓の下」安堀町の吉沢惟雄（よしざわ これお）の俳句

北「花咲けば　花に喜ぶ　人の子の　われもその人　花咲けど　花に風あり
風吹けば　花も散るなり　花咲けば　ついに浮かれて　人あまた
町にさまよう」　岡部宇一郎の詩碑

⇩

● 町田佳聲（まちだ　かしょう）邸

三光町の町田醤油醸造所の二男として生まれ、幼いころから自宅の周辺には伊勢崎織物で賑わう料亭などが多くありました。そこ彼処から三味線の音色などが聞こえる環境で育ちました。NHK 開局と共に入社し、そこで民謡や民俗学、北原白秋などと接し、昭和 50 年に「日本民謡大観」を完成させ、更に「ちゃっきりぶし」などの新作民謡など数多く手がけました。

⇩

● 旧西町界隈の路地

広瀬川から西町通りの周辺は、昭和 20 年 8 月の伊勢崎空襲で大きな被害を受けませんでした。その為、江戸時代からの道路や土地の地形がそのまま今に伝えられています。特に西町通りから西は、広瀬川の河岸段丘に囲まれ、時の流れがとてもゆっくり流れている空間が残されているように感じられます。むかし探しのできる異空間？

▲ 路地裏散策

⇩

● 三光会館（ゴール）

【参加者の感想】

・参加してよかったです。自分の住んでいる町なのに、知らない事がたくさんありました。楽しく勉強になりました。ありがとうございました。
・三光町を（西町生れなので）よく知っていますが、それとは別に新しい事を知りました。たいへん良かったです。
・車ではわからない場所に歴史的なものがたくさんあると知りました。機会があればまた参加したいと思いました。
・普段知らない路を歩き色々な史跡に出逢い、先人の心に触れた良い街歩きでした。距離的にも丁度良かったです。

広瀬川河岸にまつわる歴史散歩

《伊勢崎河岸と広瀬川の石灯籠、馬頭観世音塔と馬坂》

伊勢崎河岸は広瀬川を下り中島河岸を経て利根川平塚河岸に至る舟運の要衝で、寛文初年（1661）に高川喜兵衛が河岸問屋を開いた、次に武孫右衛門が始め二軒となった。後に「高川喜兵衛河岸問屋」がなくなり、武孫右衛門一軒で明治に至る。舟運の安全と舟難供養の為広瀬川河岸に石灯籠（市指定重要文化財）が文政 2 年（1819）に建てられた。正面に大杉大明神、住吉大明神と彫られており、現在は昭和 47 年に河原から引き上げられ、武孫平邸前に移されている。灯籠の明り取りも四面に開かれ、水先案内の役割を果たしている。神社仏閣、数寄屋灯籠の日月の意匠とは違っている。

▲ 馬頭観世音塔

武孫平邸の南の坂道は当時「馬坂」と呼ばれ、河岸に通じる急坂で、馬に荷を曳かせ上り下りさせていた。荷物運搬に耐えられず事故などで沢山の馬が死んだ事を悼み慰霊と壮健を願って嘉永 5 年（1852）「馬頭観世音塔」が建てられた。

しかし「伊勢崎河岸」は明治 22 年（1889）両毛鉄道開通で、その役目を終える事となった。武孫平邸、石灯籠、馬頭観世音塔と馬坂。伊勢崎河岸の繁栄を示す大きな遺産で、当時の舟運を示す問屋場を偲び歩き「伊勢崎河岸」の文化、歴史を知る貴重なゾーンと言える。

（七條）

《赤石稲荷神社》

今年も「景観まち歩き」の季節が訪れました。秋たけなわの季節で行事も盛り沢山です。何と今回は地元小学校の運動会と重なり受付会場探しや駐車場確保に大わらわでした。何とか地元の皆さんのお蔭で無事に開催する事が出来ました。本当にありがとうございました。

▲ 赤石稲荷神社

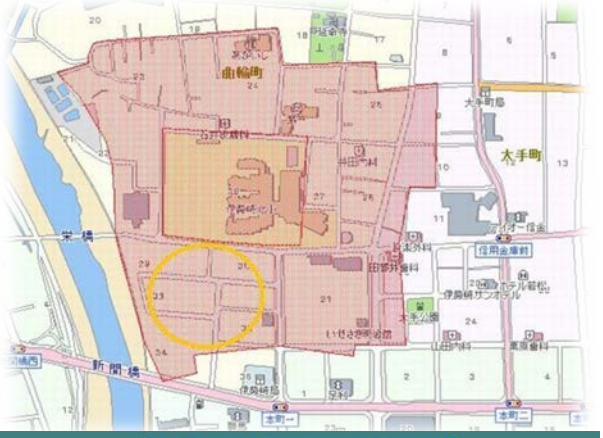
およそ 20 名の市民の方々が秋の広瀬川河畔を歩きました。今回のルートは、およそ 2.4 ㎞。伊勢崎市内で唯一江戸を感じさせる伊勢崎城(陣屋)の南に広がる町割りを、歩く事でしか味わえない路地などを探検しました。日常の中で自転車でもなかなか通ることの無い広瀬川河畔や細道は参加者の皆さんにとっても初めて味わう空間だったのではないでしょうか。途中休憩では老舗和菓子店の和菓子を頬張り、一息つきました。多くのアンケート内容からもそれらをうかがい知ることが出来ます。少し距離が長かった事もあり、予定時間の 2 時間が少し伸びてしまい今後の反省点としたいと思います。

（佐藤）

《御　殿　山》

まち歩きの概要が決まり、御殿山の説明を担当しました。実は、御殿山という地名や山があると思い調べると、「いせさき御殿山絵画館」の情報は沢山あるのに、御殿山の情報が少なく、困りました。御殿から、伊勢崎城には天守閣があったのかと疑問が湧きます。調べて見ると、平屋で伊勢崎陣屋とも言われましたが、明治維新の時に廃城処分にされました。

広瀬川東岸：ごてん山付近



旧伊勢崎城（陣屋）の史跡地帯

いせさき御殿山絵画館は、旧伊勢崎城内南西の一画にあります。御殿から、想像が広がり、平安時代の清涼殿や、歌合わせ等の優雅な雰囲気が思い出されます。担当スポットでは、百人一首で御殿のイメージを説明しましたが、空振りかと思いました。そこで、いせさき御殿山絵画館に話を転じると「私がその絵画館の者です」と、一人の女性が声をあげてくれました。いせさき御殿山絵画館周辺は閑静な住宅街で、元城主の末裔の方も住んで居られるという事で、御殿山のイメージが膨らんできて、謎も少し解けてきたように感じました。

（重田）

《旧市街地の歴史的景観資源の価値を伝えるための景観まち歩き》

平成 29 年 9 月 30 日、市内の歴史的景観資源の価値を伝え、未来に引き継ぎ生かそうという市民意識の醸成を目指した景観まち歩きが行われた。今回は三光町および曲輪町界隈で、特に広瀬川の沿線に重点が置かれた。

▲　路地裏散策

伊勢宮や伊勢の前通りの痕跡、江戸時代の小さな城下町として栄えた伊勢崎町の輸送を支えた広瀬川河岸の記憶、陣屋の痕跡、御殿山の記憶、近代以降のまちの発展を伝える新橋や新開橋、旧伊勢の前通りの反映の記憶、昭和期の反映と町中の暮らしの様子を伝える路地通り、さらに戦後のカスリン台風の記憶や民謡の大家「町田佳聲の生家」と、当地区には、古く戦国時代より江戸、明治、大正、昭和等の歴史を伝える記憶体がそこかしこに残され、このまちのＤＮＡとなっている。これらの貴重な歴史的景観資源を知ることは、まさに伊勢崎ならではの景観まちづくりに繋がるまちづくりの第一歩である。これからもこのような活動の一翼を担えれば幸いである。

（栗原）

《 町田佳聲生誕の地 》

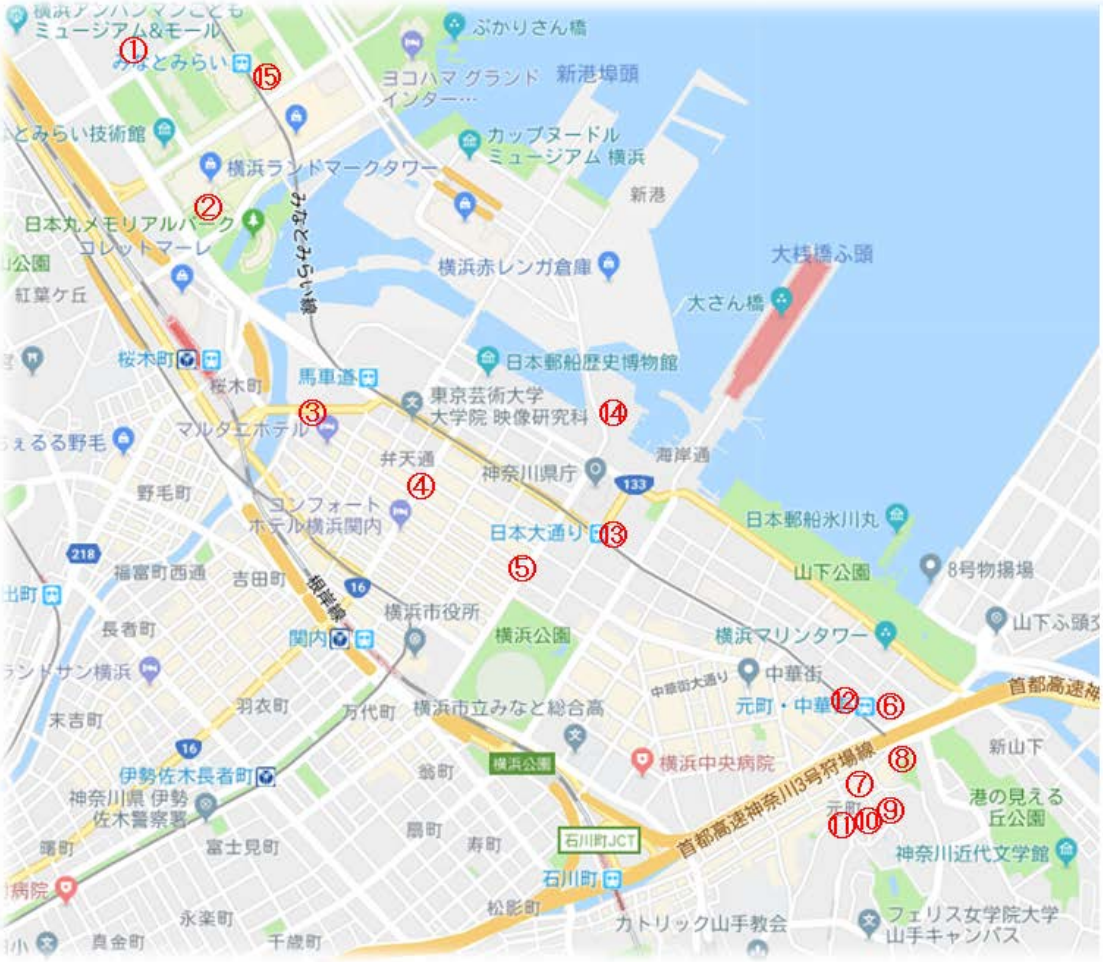
▲ 町田佳聲邸

起り（むくり）屋根や懸魚（けぎょ）など建物の特徴と彼の生い立ちなどにふれたまち歩きでした。当日ふれることのできなかった日本民謡大観の内容と彼のかかわりについて紹介します。

佳聲は町田式写音機を携行して国内各地を訪れ、現地の民謡を採録。民謡がその地にいかなる理由で生まれ伝承されてきたか、採録時においていかなる状態にあるかを考察するように努めました。そして、邦楽に関する知識を活かして採録した民謡を五線楽譜に採譜しました。

これらの楽譜と歌詞を載せた日本民謡大観では楽譜と歌詞の脇にその民謡に関する地理的説明や採録年月日、演唱者氏名などを掲載しました。たとえば、剛志村（現伊勢崎市境剛志）の桑摘唄では『剛志は境島村と共に上州の養蚕地、昭和 12 年 6 月 23 日採録、演唱者は柿沼庄平外 4 名、採譜者は町田嘉章（本名）―藤井清水である』などと説明を加えています。（岡部）

第３章『景観先進都市視察「横浜」』



「日本の歴史と現在～未来をつなぐまち横浜市」

今回の先進都市視察は大都市「横浜市」で、台風 22 号の接近を気にしながらの出発でした。

横浜は個人的には、若い頃に住んでいた事も有り、その後も写真撮影の場所として何度も足を運んだ場所でもある所から、正直あまり期待したイメージはありませんでした。

しかし、今回改めて横浜市を訪れ、案内して頂いたガイドさんの手慣れた説明のおかげも有り全くイメージが変わりました。

視察の具体的な内容については割愛させてもらいますが今回の視察で自分なりに強く感じた点は、横浜という大都市でありながら、「大事な歴史的文化遺産を残し、それを積極的に活かしながらバランスの取れた”現在”そして”未来”へと続く都市づくり」を着実に実現しているという事です

更に、重要な点は、大都市であろうと小都市であろうと「まちづくり」には一貫した長期的計画と継続してやり抜く行政だけでなく、住民パワーが不可欠であると再認識しました。

（秋山）

「元町商店街について」

▲ 元町商店街の様子

元町は、神奈川県横浜市中区にあり、150年以上の歴史ある横浜を代表する商業地として特に有名だ。町域の南・東側は山手丘陵地と隣接し、北側は堀川（運河）を挟んで山下町（横浜中華街）と隣接する。

山と運河に挟まれた平地部分を中心に形成されている。東にみなとみらい線元町・中華街駅。西にJR根岸線石川町駅がある。運河と3本の狭い通りが町内に走る。今は女性ファッションのお店を中心に独自ブランドを発信している。

まちづくり壁面線後退事業(1965)などを行い、まちづくりを推進した。

元の商店街を生かし、敷地の共有化などで、道路の拡幅をせず商店の低層部を後退させる事でその機能を持つモールとし、快適な歩行空間の演出をした。

モールの幅員構成は歩道3.05mと5.05m、車道3.5m。この中にはストリートファニチャー、オシャレな街灯、ベンチ等があり、ゆったりした雰囲気である。また、近年姿を消したショウウインドウがある。各店舗のそれは、町を訪れた人が道路の両側で自由にショピングを楽しめる。まるで町全体が大規模店舗の様相を呈している。

（家泉）

「都会の中の静寂」

日本を代表する大都会・横浜は丹沢山系の水源を水上とする美味しい水に恵まれ、世界中の船乗りの健康を支配する飲料水を提供していました。そんな横浜について今日までの発展の歴史に触れると、簡単に今の大都会に成長した訳ではなく沢山の人々の力が集結し、戦火やその他の困難に向き合いながら、不屈の精神で今日の横浜に成長したことを身に染みて強く感じ取りました。

外国人墓地では説明を聞きながら日本の歴史と共に生きた貴重な外国人の人生にも思いを寄せました。寂しい雰囲気の漂う秋の風景に、大都会とは対照的なこの場所も横浜の人達が、静かに大切に守っている様子が感じられました。

古い歴史を刻んだ建造物を守り保存することはどの都市にとっても困難を窮めていますが、まずはそうした気持ちこそが大切であると切実に感じられました。横浜程の大都市であっても例外ではなく、どの都市であっても思いは同じであるという事実を痛切に感じました。

（和佐田）

平成２３年度都市景観大賞受賞「日本大通り・象の鼻地区」

過去の景観先進都市視察は地方の宿場跡を中心に実施されてきましたが、今回は大都市における景観まちづくりを学ぶための視察となりました。

横浜シティガイド協会の嶋田様による学術的な要素を含んだ解説は今後の私達の活動に大きな指針を提供してくれたように思います。

１９世紀半ばのペリー来航から関東大震災、第２次世界大戦、朝鮮戦争と目まぐるしく変化する情勢の中で無秩序に拡大する都市を１９６３年に横浜市長に就任した飛鳥田市長の下で「６大事業推進による都市の骨格形成」と云う戦略が構築されて現在に至った経緯の説明がありました。

その成果は２０１１年に「都市景観大賞」を受賞することになり、全国の都市景観創生のお手本となりました。

▲　ガイドの嶋田様

受賞の対象になった日本大通りは２００２年に歩行者空間を拡充する再整備が行われ、沿道には事務所や公的行政施設が多く立地しており、歴史的建造物も集中していました。

象の鼻パークは横浜開港の地でありながらも最近まで港湾施設として市民が立ち入れない場所でしたが、２００９年に開港１５０周年を記念して港湾緑地として整備され、市民に開放された空間となったそうです。

嶋田様の案内でこれらの地域を見学させてもらいましたが、限られた紙面で全てを記述することは出来ません。これからの活動の中で機会を作って復習していきたいと思います。

（加治屋）

景観サポーター情報紙「いせさき美尋」とは？
美尋の「美」→多方面から考察した美しいもの。「尋」→素晴らしい景観を尋ね求める。対象物の本質の探究。
景観サポーターは、伊勢崎の自然、歴史、地域文化、先進性等景観の大切さ・素晴らしさ・美しさを多方面から尋ね（美尋）、景観の価値を学び・発見すべく研鑽を重ね、その発表の場を「いせさき美尋」と名付けました。
発行／伊勢崎市景観サポーター実行委員会
『いせさき美尋』景観サポーター情報紙第１０号
平成３０年１月２５日発行　　連絡先／090-1252-2509（佐藤好彦）

私たちと一緒に活動しませんか？

景観サポーター募集中

景観サポーターとは？

市と協働しながら、景観まちづくり講演会などのイベント開催、景観情報誌の発行、まちづくり先進地の視察など、良好な景観の形成に向けた活動を通じ、広く市民の意識啓発や市民目線による提案を行って本市の景観行政をサポートする市民ボランティアです。

どうやったらなれるの？

申込みは随時受け付けています。
詳しくは、市ホームページか都市計画課・景観係（27-2767）までお問い合わせください。

伊勢崎市の景観重要建造物

地域の自然、歴史、文化等からみて、建造物（建築物及び工作物）の外観が地域の景観上の特徴を有し、地域の景観形成に重要なものを、景観法（平成16年法律第110号）第19条の規定に基づく景観重要建造物に指定しています。

見学が可能な施設もあります。

各施設についての詳細は、市ホームページか都市計画課・景観係（27-2767）までお問い合わせください。

【市ホームページ】

▲ 蚕種農家住宅 田島林平旧宅

▼ 旧時報鐘楼

▲ 黒羽根内科医院旧館（いせさき明治館）

◀ 伊与久 雷電神社